

大規模可視化システムを用いた 夜間津波避難行動シミュレーション

大阪大学 サイバーメディアセンター 安福健祐

目的：夜間津波からの避難行動を再現するシミュレーション開発のため、大規模可視化システムを使った被験者実験を通して避難行動データを収集する。

内容：避難経路をCGにより再現し、大規模可視化システムに投影した映像を見ながら、被験者が主観評価による避難行動実験を行う。複数のCG画像で誘導灯の設置パターンを変え、誘目性の高い誘導灯の検討も行う。

結果：誘導灯の効果は、表示面の大きさ、フラッシュ、外乱光が影響し、特に800 lmのフラッシュの誘導効果が高くなった。経路選択傾向と誘導灯の誘目性の傾向はほぼ一致するが、外乱光による明るい経路は選択されやすい一方、誘導灯との明度差が低くなるため誘目性は低下した。

利用した大規模可視化システム：
24面大型立体表示システム



24面大型立体表示システムでの可視化結果